芸術学部創立30周年記念号の発刊にあたって

芸術学部が昭和41年に創設されて30年を経た。研究報告集は学部発足４年目の昭和45年に第１号が発刊され，今日まで毎年発刊を重ねている。その30年間の研究の蓄積は，世の人の認めるところであろう。大学の目的は教育と研究であることは言うを待たない。その研究発表の場としてこの芸術学部研究報告は大きな役割を果たしてきたのである。

芸術学部では，芸術を理論的に追求するばかりでなく，作品の制作が大きな分野を占めている。その芸術の創作は，人間の感性に訴えることを目的とする。そこでは論理性や合理性が超越され，それを対他的に説明できない。そのような部門が学部の中で大きな部分を占めるが故に，この研究報告集も作品編と論文編によって構成されるという特色を持っている。それは創作を中心とした芸術学部の必然的な姿であろう。今回の芸術学部創設30周年記念号の発刊にあたって，芸術学部のあり方と30年の歴史に立脚した幅広い創作と研究が寄せられたことは，心強く喜ばしいことである。

芸術は永遠に普遍的価値を持つものとして述べられることが多い。しかし，芸術も人間が創り出し伝えてきた文化であるから，時代の変化と常に関わりを持っている。そして今日，時代は大きく変わりつつある。私達はそのことを常に心しながら，30年の歴史を土台として，次なる飛躍を心がけねばならない。

平成９年２月

九州産業大学芸術学部長
飯岡　正麻